

松江いなさ



題字揮毫 千家達彦 (元いなさ会最高顧問)

写真提供 板垣 宏 (写真家・高校7期)

第30号

大社高等学校創立百二十周年式典に思う

会長 江口 博 晴 (高校十期)



昨年十月二十日、母校体育館で大社高等学校創立百二十周年記念式典が開催され、私は松江いなさ会を代表して出席してきました。

出席者は千人ほどだったでしょうか。在校生が中心でしたが、その若さが醸し出すエネルギーのせいかな、大変大きな熱気を感じました。

式典は、校長式辞、北島いなさ会会長のご挨拶等々があり、校歌斉唱で締めくくられました。その後記念講演、記念演奏会、場所を移して祝賀会と続き、盛りだくさんの一日でした。

ともに校歌を歌ったりしながら、ここにいるみんなと自分がつながっているという誇らしき気持ちを感じました。生まれた場所も時間も違いますが、大社高校というものを通して私たちは生涯つながっている、それを実感できたことは実に幸せなことでした。

十代の後半、多感なあの時期をあの高校で過ごした経験を共有していて、それを語り合える場は本当に貴重です。そういうことから言えば、いろいろなつながりのうちの、大切なものの一つに松江いなさ会はなり得るのではないのでしょうか。

残念ながら、松江いなさ会への参加者は右肩下がりでです。このため、昨年は「松江いなさ会活性化プロジェクトチーム」を設け、松江いなさ会の今後の在り方について検討してもらいました。多様な提案をいただきましたが、「特効薬はない」という認識も示されています。そうであるうちは思っています。ただ、こんなことを真剣に議論することがすでに活性化です。

私は、このチームと意見交換した際、松江いなさ会は楽しくなければならぬと何度も言いました。この気持ちは松江いなさ会の役員の方々に伝わったと思っています。

大社高校百二十周年記念式典に参加しながら、皆さんが集まりましたくなる楽しい松江いなさ会を実現したいものだと、強く思った次第です。

今年の総会で、昨年以上に多くの会員の皆様にお目にかかれることを楽しみにしております。

ホーランエンヤ 伝承館訪問記

平成から新しい年号、「令和」に変わる記念すべき今年、松江では「ホーランエンヤ」が催されます。これは三百七十年の歴史を有する松江城山稻荷神社式年神幸祭の通称で日本三大船神事と言われ、水の都松江が誇る豪華な船祭りです。十年に一度開催され四十万人もの観光客が訪れるこのお祭りを学ぼうと今回、松江市観光ボランティアとして日々活動されている松江いなさ会の引野律子さん（高校二十期）に伝承館をご案内いただきました。

ホーランエンヤというのは船をこぐときの掛け声です。全国あちこちで同様の船神事が行われていますが、松江では一六四八年、大凶作の年に松江松平家初代藩主直政公が豊作を祈願するお祭りを行ったことが起源です。たまたま一八〇八年の神事が暴風雨に見舞われた時、付近の漁師が神輿船を難から救ったことがきっかけとなり、その後二百年に渡って華やかな権伝馬船が神

輿船を囲んで船行列をすることになりました。

旧暦の卯月に開催されるのは何故か、権伝馬船の先頭で踊る若者が歌舞伎の衣装のみならず横綱の化粧まわしもしているのは何故か、などいろいろ分かって納得しました。

国宝松江城には毎年多くの観光客が訪れますが、すぐ近くのホーランエンヤ伝承館を訪れる人はまばらです。松江いなさ会の



皆様もお友達ご近所の皆さんを誘って一度見学されてはいかがでしょう。お祭りをさらに楽しむことが出来そうです。

（文責・今岡）

表紙に寄せて

ホーランエンヤ神事に思う

板垣 宏（高校七期）

表紙の写真は平成二十一年に撮影したものです。写した場所は松江大橋の北詰西側の一角で二時間ぐらい前から小型の脚立に所有者名を書いた紙を貼り付けて、場所取りして神事の始まりを待ちました。

すぐに大橋の欄干際はカメラを手にした人達で埋め尽くされた状態で、全国各地のお国言葉が飛び交ってホーランエンヤの人氣ぶりを目の当たりにしました。

昭和時代にも撮影したはずなのに残しておらず、あの赤色を中心に極彩色の船神事をカラー写真で三回分をデジタル画像で残していたのが幸いし「松江いなさ会会報」に掲載して頂き喜んでいきます。蛇足ですが、三回とも天気にも恵まれたのは城山稻荷の御神輿が船に載って渡御されるからでしょうか。今年も晴れますように祈ります。

「出雲大社平成の大遷宮

記録撮影に関わって」

独立軒写真場 代表取締役

やまさき あつし

山崎 充史 氏

(高校四十三期)



大社町の独立軒写真真場といえは、いなさ会の皆さんも学校行事や見合い写真、結婚式などでもお世話になった方も沢山いらっしゃると思います。初代の山崎巖さんから二代目の民夫さん、そして充史さんまで三代に渡って出雲大社の専属写真館として、出雲大社さんからの厚い信頼の元での大遷宮の神事撮影です。それらは一般人では決して見ることも出来ない貴重な写真の数々であり、総会に参加した松江いなさ会の私



達も会場スクリーンに映し出される荘厳な儀式の様子に目を見張るものがありました。著作権の問題もあり、ここには一部しかご紹介できないのが残念です。山崎さんありがとうございました。

母校だより

スポーツ分野でも県内トップクラスの成績をあげている大社高校ですが、文化系クラブも負けてはいませんよ。今ご紹介するのは合唱部です。

部活顧問の須田先生、尾原先生の指導のもと日々の練習に取り組んでいる合唱部は、毎年コンクールに出場する以外に、地域でのイベントにも積極的に参加し、多くの人に美しい歌声を届けています。

平成三十年の主な実績は

・松江プラバ室内合唱コンクール

女声の部 金賞・コンクール大賞(第一位)

声楽アンサンブルコンテスト全国大会銅賞

・島根県合唱コンクール

高校A部門 大社・出雲商業合同合唱団

金賞・県代表

高校B部門 金賞・県代表

・中国合唱コンクール

高校A部門 大社・出雲商業合同合唱団

銅賞

高校B部門 銅賞

など輝かしい成績を誇ります。

部長・三原優依さんは

語ります。「私たちの目

標は Nonfermari (ノン

フェルマーティ。日本語

で「止まらない」という意

味)。この目標を胸に、

応援してくださる方に歌

で感謝の気持ちを伝えま

す。一人一人が向上心を

持ち、全国大会出場を目

指し頑張ります。」

杉谷幸夫(高校三十二期)



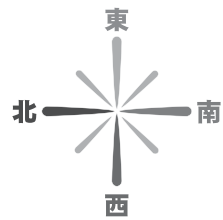
(写真は創立百二十周年記念演奏会の様子)

春高バレー観戦記

平成三十一年一月五日、第七十一回全日本バレーボール高等学校選手権大会に三年ぶり二度目の出場となる大社高校女子部が出場しました。今年はなんと主将の重親亜依さん(三年)が選手宣誓です。「新時代を担う私たちが平成最後の春高を歴史に刻まれるすばらしい大会にします！」と宣誓し、大きな拍手が会場に巻き起こりました。東京近辺に住むいなさ会のメンバーも多数集まって応援です。結果は残念でしたがその後の同窓会では大盛り上がり。やっぱり後輩の元気な様子こそが卒業生たちの一番のご馳走ですね。頑張れ！後輩たち。

(東京在住女性・高校二十四期)





大社町の思い出を語り合いました

卒業して何年、何十年立っても忘れられない青春の1ページが大社町のあちこちに残っています。江口会長を中心にして松江いなさ会の役員の方々の皆も大社町の地図を前にして顔を寄せてワイワイ大盛り上がり。この地図の上に読者の皆さんも思い出の1ページを書き込んでみてください。



現・大社高校

国鉄大社駅の列車の一番先と一番うしろに乗ったカップルはきっと出雲でデートだぞとウワサした



旧大社駅

大棍の盆踊りはそれは賑やかなもんだった

協和発酵の事務所があった

道の駅大社
ご縁広場吉兆館

高校のそばにアルファ食品があった

大社松精油の工場があって高校にもその匂いが漂ってきた

そげかね!



湊原の一角に後産の慰霊碑があった

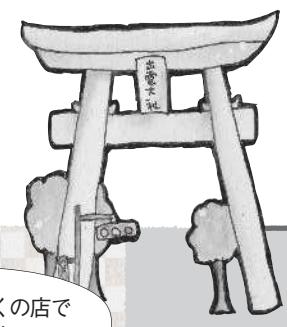
女学校時代、塩を作っていた。ちょうどその時に終戦になった

園の長浜ではハマグリが取れた

きづき海浜公園

高等女学校の頃、水泳訓練中に1年生2人が溺れた

一の鳥居
(宇迦橋の大鳥居)



一畑電鉄の鐘ヶ崎(やりがさき)駅は名前が変わって浜山公園北口になった

神門通りおもてなしステーション
(大社観光案内所)

一畑電車
出雲大社前駅

そういえば 年頃、
.....
.....
.....

昔の宣伝広告は飛行機からのピラマキで子供の頃みんなで拾った

旧大社高校前に前島熊吉さんという占い師さんがいた

学校帰り電鉄大社駅の近くの店でホクホクの大判焼きが美味しかった

焼きそば派とお好み焼き派があった

三角屋で焼きそばを食べて帰るのが日課だった

神門通り広場

東洋膏板の工場があった

焼きそばは昭和45年のころは40円だったけどその後毎年10円づつ値上がりした

旧大社高校前に原書店があった



旧・大社高校

保育園と幼稚園の子どもたちは仲が悪かった

西の正門そばにラーメン屋さんがあったけどそこは西鉄ライオンズの伊藤光四郎の実家だ

西の正門そばにもどんぼ屋(大衆浴場)があった

先生に命令されて海水を運んで塩つくりの手伝いをさせられた畑だったスイカを取って食べた

桑畑で桑の実を取って食べたけど赤痢の心配があって禁止になった

湊原の一角に後産の慰霊碑があった

四つ角に吉川本屋があった

大社さんから山根道路をあがって日本海が見えるところに来たらまあ青い海がきれいだった

奉納山はデートの場だった

中村にどんぼ屋(大衆浴場)があった

見晴らしは最高だった

弁天島のところにクジラ島があった

イリコが沢山干してあった

稲佐の浜のかたちが変わってしまった

稲佐の浜

プールがあって溺れかけたことがあった

浜でシマニクを取って風船にして遊んだ

春の遠足はいつも日御碕だった

稲佐の浜から築港まで水泳大会があった



あげだがあ!

遠足といえば鱈淵寺だった

真名井の川でシジミ採りをした

真名井の清水

命主社

北島国造館



出雲大社拝殿前の銅の鳥居は毛利輝元が寄進した

三の鳥居

四の鳥居

社務所

出雲大社さんが火事になったのは昭和28年の遷宮の年だった

弥山さんが大社さんの火事で真っ赤に見えた

駐車場

神楽殿

千家国造館

昔の銅山跡があって黄銅鉱を金だと思って探した

奉納山はデートの場だった

中村にどんぼ屋(大衆浴場)があった

見晴らしは最高だった

弁天島のところにクジラ島があった

イリコが沢山干してあった

稲佐の浜のかたちが変わってしまった

稲佐の浜

プールがあって溺れかけたことがあった

浜でシマニクを取って風船にして遊んだ

春の遠足はいつも日御碕だった

稲佐の浜から築港まで水泳大会があった

松江で活躍する 大社高校OB訪問記

昨年度全国社会人大会で優勝し、今年からJリーグ昇格への登竜門となる日本フットボールリーグ（JFL）に挑戦するのが松江シティFCです。そしてそのチームのキャプテンが大社高校出身の田平謙（たびらゆずる）選手（三十才・高校五十九期）。最近では地元のニュースにも何度も登場していますのでサッカーファンではない同窓会の皆さんにも見覚えのある顔かも知れません。

今回、松江で活躍する大社高校OBとして注目されている田平選手を訪問してきました。懐



（写真提供 松江シティFC）

かしい大社高校時代の思い出やこれからの抱負を明るく笑顔でインタビューに答えてくれる好青年でしたよ。

大田市仁摩町出身の田平選手は、県内でも強豪のサッカー部のある大社高校に入学しました。お話を聞くまでは、てっきり体育科だろうと思っていましたが、実はこれが普通科だったそうです。高校二年の時にインターハイ出場、三年の時に準優勝という輝かしい成績を残しました。

大社高校時代の思い出で一番印象に残っていることは碧雲寮での生活だったようです。そこにはいろんな部活の学友がいて様々なスポーツのトレーニング方法など学ぶことが出来たり、一流の選手たちと友達になれて教えられることが沢山あり、その経験が間違いなく今の自分を生かされているとのことでした。

卒業後は岡山県の三菱自動車に入社、地域の強豪チームであった三菱水島FCで活躍しました。しかし長引く不況の影響でスポンサー企業は全国社会人サッカー連盟から脱退することとなり、それに合わせて田平選手も二〇一〇年に島根に帰って来ました。そして松江シティFCに所属し現在に至っています。現在は松江市内の電機メーカーにアルバイト勤務しながら夢を追い続けるサッカー一筋の人生です。なかなか大変ですねえ。

決して体格に恵まれているわけでも無い田平選手ですが、布陣の中央にいて攻守両面の要となるボランチを任されています。しかもキャプテンという重責です。松江市民だけでなく県内多くの皆さんに試合を見に来て頂きたいとのこ

とでした。

今年三月十七日から開幕したリーグ戦での成績によっては、夢のJリーグへの切符も・いえいえ、まだまだ先は長いようです。アマチュアの地域スポーツからJリーグまでの中間にあるのがこのJFLで、しかもJリーグもJ1、J2、J3に分かれています。ちなみにお隣の鳥取県のガイナレ鳥取はJ2です。

開幕を控え、松江市内でサポーターやスポンサーとともに開かれた決起集会では、「チャレンジ」と「責任感」を今季のテーマに掲げ田平選手もJFL参戦元年に向けて決意しています。監督と二十九人の選手が松江市の花「椿」がデザインされた黄色と白のユニフォームで大活躍してくれることを期待しましょう。



JFLは全国十六チームが参戦し、ホーム&アウェイ方式で各三十試合を行います。上位四チームがJ3参入の権利を得るとのこと。松江いなさ会の皆さんもホームの松江市総合運動公園（松江市上乃木）

で開催される試合にはぜひ訪れて同窓生の田平選手を精一杯応援してあげてくださいようお願いします。

（文責 今岡）

会務報告

事務局長 糸賀耕一（高校十九期）

平成三十年度第三十二回総会は、サンラポールにもにて北島建孝いなさ会会長（高校二十九期）・若林牧彦教頭、杉谷幸夫教諭（高校三十二二期）を迎えて、和やかに開催されました。

記念講演は、山崎充史氏（高校四十三期）。独立軒写真場代表取締役）に「出雲大社平成の大遷宮記録撮影に関わって」と題する講演をしていただきました。遷宮の記録撮影、四季折々の出雲大社の映像、その撮影にまつわる苦労話や思い入れをうかがいました。

今年の総会は、六月十五日（土）午後四時より「サンラポールむらくも」にて開催します。

平成三十年度の事業

- ▼平成三十年四月二十八日 第一回役員会
会計監査、前年度の事業報告・決算報告、本年度の事業計画・予算案承認。総会準備、総会案内状・会費納入依頼状・会報発送作業。
- ▼平成三十年五月三十一日
松江いなさ会活性化プロジェクトチーム会議
- ▼平成三十年六月九日 第三十二回総会
於・サンラポールむらくも
参加者 来賓四名、会員二十五名
- ▼平成三十年六月十九日
松江いなさ会活性化プロジェクトチーム会議
- ▼平成三十年九月十五日
松江いなさ会活性化プロジェクトチーム会議
- ▼平成三十年十二月一日 第二回役員会
本年度の総会・懇親会の反省、来年度の総会打ち合わせ。同日 会報編集委員会
- ▼平成三十一年三月九日 第三回役員会
会計中間報告。来年度の総会打ち合わせ。
同日 会報編集委員会

平成30年度松江いなさ会決算書

収入総額	541,529 円
支出総額	276,382 円
差引金額	265,147 円

1. 収入の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	摘要
会費	260,000	224,000	▲36,000	@2,000×112名
寄付金	50,000	56,000	6,000	いなさ会他
雑収入	481	1,010	529	預金利息(普通、定期)
繰越金	260,519	260,519	0	
合計	571,000	541,529	▲29,471	

2. 支出の部

単位：円

項目	本年度予算額	本年度決算額	増減	摘要
会議費	30,000	19,872	▲10,128	幹事会、役員会、事務局費等
事務費	60,000	39,604	▲20,396	通信費、事務用品、消耗品等
事業費	350,000	196,376	▲153,624	総会、会報発行費等
慶弔費	20,000	10,000	▲10,000	吉岡豊利氏香典
雑費	20,000	10,530	▲9,470	振込手数料等
予備費	91,000	0	▲91,000	
合計	571,000	276,382	▲294,618	

基金積立金現在額 200,000円

令和元年度松江いなさ会予算(案)

1. 収入の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減	摘要
会費	260,000	240,000	▲20,000	@2,000×120名
寄付金	50,000	50,000	0	
雑収入	481	853	372	預金利息
繰越金	260,519	265,147	4,628	
合計	571,000	556,000	▲15,000	

2. 支出の部

単位：円

項目	前年度予算額	本年度予算額	増減	摘要
会議費	30,000	30,000	0	幹事会、役員会、事務局費等
事務費	60,000	60,000	0	通信費、事務用品、消耗品等
事業費	350,000	350,000	0	総会、会報発行費等
慶弔費	20,000	20,000	0	
雑費	20,000	30,000	10,000	振込手数料等
予備費	91,000	66,000	▲25,000	
合計	571,000	556,000	▲15,000	

基金積立金現在額 200,000円

今年度の総会 御案内

日時 六月十五日(土)

総会 午後四時から。

記念講演 午後五時から。

懇親会 午後六時から。

懇親会会費 五千元。

会場 サンラポーむらくも(松江市殿町)

記念講演 講師と演題

金築 一郎氏

(日本ツバキ協会)

しまね花椿同好会 幹事

『シーボルトから出雲だいいこくまで』

『現代の花咲じいさんの楽しいお話』

講師からのコメント

自衛隊、三菱重工を退職後、ある茶会の席に飾られた一輪のツバキ「正義(まさよし)」に魅せられてからツバキ一筋の研究人生です。

大社町鷺浦の銅山の近くで発見された黒椿「出雲だいいこく」はじめ、ツバキと出雲地方の深いかかわりを皆さんにお話したいと思います。



(写真は出雲だいいこく)

松江いなさ会では松江地区在住の方及び同地区勤務の方の同窓の絆を深め、懇親を図る場として毎年総会を開催しております。お誘い合わせの上、一名でも多くの方にこの輪に加わっていただき、ご参加いただきますよう、宜しくお願い致します。

皆様へお願い

松江いなさ会は、皆様からお納めいただく会費で運営しており、御協力いただいております。ことに、厚く御礼申し上げます。

結成から三十年余、松江いなさ会の絆をさらに発展させて行きたいと思っております。つきましては、年会費は二〇〇〇円、納入期限は一応、十月末日でございます。



近年、会費納入が減少の一途をたどっており、多面、諸経費の上昇もあり、会計事情は極めて厳しくなっています。事情ご賢察いただきまして、一人でも多くの方からの会費納入をお願い申し上げます。



編集後記

ベルリンの壁の崩壊とともに明けた「平成」が終わり、新たな元号「令和」の時代が始まりました。どうかこの時代も平和で災害の少ない時代であることを祈ります。時代を超えてつながりあう仲間が同窓会。大社町の絵地図を前にして楽しい語り合いは今回の編集作業の宝物のようなひとときでした。

今岡克己(高校二十四期)